

茂木敏充衆議院議員との対談 第2回

全4回

衆議院議員 茂木敏充先生

開倫塾塾長 林明夫

林 : おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴き頂きまして、ありがとうございます。今月も第3週になりました。スペシャルゲストをお招きしています。衆議院議員で、情報通信技術(IT)担当などの国務大臣をされた茂木敏充先生です。よろしくお願いたします。

茂木 : こちらこそ、よろしくお願いたします。

林 : 先月に引き続きまして、「少子高齢化社会」についてお話を伺います。今回は「少子高齢化社会」の社会的なインパクトといったものについて、教えて頂きたいのですが。

茂木 : 今回は、少子高齢化社会が我々の生活や社会にどのような影響をもたらすかについて、林さんと議論したいと思います。先月の対談で、日本は高齢化の進み方がとても速いことをお話ししました。それから、一方で、少子化が現在進行形でまだ続いている。だから、医療制度や年金制度の改革を急がなくてはいけない。また、ちょうど今、団塊の世代のジュニアが30代を迎え出産適齢期ですので、これからの5年間くらいが少子化対策の本当の勝負のときだというお話をさせて頂きました。今回は2回目ですので、この少子高齢化が日本の社会にどのような影響を与えているかについて考えてみたいと思っています。私は、大きく3つの社会的な影響・インパクトがあると考えています。

林 : 1つ目は何でしょうか。

茂木 : 労働力が不足することです。これからは人口が減っていくわけですから、当然労働力も不足します。厚生労働省の予測では、今後10年間で約410万人もの労働力不足が発生します。これを解決するためには、ニートやフリーター、若い人にもきちんと仕事をしてもらうように教育していかなければいけない。また、これからは感性の時代で、女性の働く場もどんどん増えていきますから、女性の社会進出を応援する。それに、今の高齢者は昔のお年寄りとは違います。

林 : 皆さんお元気ですね。

茂木 : そうです。ですから、元気なお年寄りにもっとがんばってもらう。若者、女性、高齢者への積極的雇用対策をとって、どうにか300万人の雇用増を図っていきたい。ただ、410万人も不足してくるのですから、これでも追いつかない部分があります。外国人労働者を受け入れることも必要ではないでしょうか。例えば、英語の先生やヘルパーさんなども含めて。これが1つ目の労働力不足の問題になると思います。

林 : 2つ目は何でしょうか。

茂木 : この高齢化社会の中で、お金を誰が持っているかが変わってきています。30年前と今とを比べてみると、30年前は年代別でみると30代、40代が貯金を一番多く持っていました。

林 : お父さん、お母さんですね。

茂木 : 全体の貯金額の 53 %です。60 代以上の人は 18 %で、全体の 2 割にもなりませんでした。それが今は完全に逆転してしまいました。30 代、40 代はちょうど住宅ローンを抱え、また、子育てや教育にもお金がかかりますので、その貯金額は全体の 22 %です。逆に、60 代以上の元気な人は全体にボリュームが増えていますから、ここが全体の預貯金の 54 %を持っています。半分以上です。

林 : 本当に 30 年で完全な逆転ですね。

茂木 : これによって何が起こるか。30 代、40 代は物入り(経済学用語で消費性向が高いと言います)です。ところが、このよく使う年代はお金を持っていない。一方で、高齢者は元気であっても食べる量はやはり減ります。また、衣服の好みも大きく変わったりしませんから、どうしても消費性向は低くなります。すると、全体の消費支出は落ち込む傾向になります。もう 1 つは、肝心な子育ての世代、子供を産む 30 代が、本来は 2 人目、3 人目の子供をと考えるところで、預貯金がないので経済的に厳しいから 1 人でやめておこうということになり、これ以上子供を産まない原因となっています。

林 : 出生率が上がらないということですね。

茂木 : はい。これが 2 つ目です。

林 : 3 つ目は何でしょうか。

茂木 : 一番大きな問題ですが、社会保障費がどんどん増えていくことです。平成 18 年、今年の国の予算は 80 兆円弱です。それに対して社会保障費は 88 兆 7 千億円ですから、国の予算全体よりも、年金や医療費、さらには介護・福祉を含めた社会保障費の方が大きくなってしまいました。

林 : それは困りますが、社会保障費は必要ですね。どれくらいの規模がいいのでしょうか。

茂木 : 単に 80 兆、88 兆と言ってもなかなかイメージが湧きませんよね。ラジオを聴いて下さっている方にイメージが湧くようにお話します。お礼 100 万円分の束がちょうど 1cm です。1000 万円で 10cm、1m 積み上げると 1 億円になります。ということは、束を立てて並べていくと 1km で 1 千億円、10km で 1 兆円です。ですから、88 兆円という額は 880km となり、これは、東京から 100 万円の束をぎっしり並べて行って、東北自動車道で、佐野藤岡インターを通り越し、福島、仙台、盛岡をぬけて青森くらいまでずーっと並べるとなる額です。それくらい年金や社会保障費がかかる時代になっています。この社会保障費をどのように抑えるかを考えなければなりません。

林 : ただ、年金も医療も必要なものですね。どうしたらよいのでしょうか。

茂木 : 無駄で抑えられる部分はあります。個々に見ていく必要があります。また、社会保障費の配分をどうするかについてもこれから工夫が必要です。今回はこれらの解決策について議論したいと思います。

林 : 今日は、先月に引き続きまして特別ゲストに現衆議院議員で、情報通信技術(IT)担当大臣であられた茂木敏充先生をお招きして、少子高齢化社会についての 2 回目のお話、少子高齢化の社会的インパクトについてお話を伺いました。先生ありがとうございました。皆さんも是非この問題についてお考え下さい。